

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

この号の内容

- 1 イタリア、埋葬できなくてごめん…巨大広告で亡き母に謝罪、当局に圧力
- 2 12歳少女ら「静かに」抗議、伊トリノで学校再開
- 3 26日からコロナ制限緩和 低感染地域で飲食店など再開
- 4 EU支部だより

- ・埋葬地不足の問題
- ・数百人のひつぎ順番待ち
- ・11万5500人以上死亡
- ・教育の権利を求めて
- ・26日から白ゾーン復活

イタリア、埋葬できなくてごめん…巨大広告で亡き母に謝罪、当局に圧力

2021年4月15日 16:42 発信地:ローマ/イタリア [イタリア ヨーロッパ]

【4月15日 AFP】新型コロナウイルスとの闘いが続くイタリア・ローマの街中に、「お母さん、まだ埋葬してあげられなくてごめんなさい」とのメッセージが記された巨大屋外広告が登場した。コロナ禍で墓地が不足する中、当局に対応を迫る狙いがあるという。縦7メートル、横9メートルの広告を市内に複数掲出したのは、屋外広告看板事業を営むオベルダン・ズッカローリ(Oberdan Zuccaroli)さん。85歳の母親を先月8日に心臓発作で亡くした。広告を出した目的は、愛する母への追悼の気持ちを示すとともに、埋葬地不足の問題を啓発するためだとしている。ズッカローリさんは、ローマのプリマポルタ(Prima Porta)墓地では「もはや埋葬を行っておらず、数百人分のひつぎが順番待ちをしている」と伊紙コリエレ・デラ・セラ(Corriere della Sera)に語った。「なぜかは分からないが、数か月間も置かれたままだ」今年1月9日にやはり新型コロナ以外の原因で亡くなった叔母も、同様に埋葬を待っている状況だという。今回の屋外広告に加え、ズッカローリさんはさらにポスター250枚を掲出する予定だ。地元紙メッサジェロ(Il Messaggero)は14日、プリマポルタ墓地では今週に入って火葬の受け入れを停止したと報じた。ローマ市から墓地の管理を委託されているAMAは12日、埋葬場所の確保に努めていると発表し、状況は制御できていると主張していた。AMAによると、昨年10月～今年3月に受け入れた遺体の数は前年同期比30%増だった。イタリアでは、コロナ禍を受けて全土で死者数が激増している。政府統計によると、これまでに11万5500人以上が新型コロナウイルス感染により死亡した。(c)AFP

12歳少女ら「静かに」抗議、伊トリノで学校再開 2020/11/18

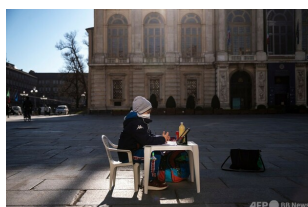
【11月18日 AFP】イタリア・トリノ(Turin)の中学校前で、共に12歳のアニタ・イアコベッリ(Anita Iacovelli)さんとリザ・ロリアッティ(Lisa Rogliatti)さんは、7年生(中学2年生に相当)以上への学校での授業が行われないことに反対し、校舎の前に座っている。トリノがあるピエモンテ(Piedmont)州は6日、政府によって感染リスクが高い地域「レッドゾーン」に指定され、これを受けて、イアコベッリさんらが通う中学校も再度の閉鎖措置が取られた。しかし、学校に行きたいとの気持ちから、イアコベッリさんは母親同伴で校舎前でのリモート授業への参加を開始。数日後にはクラスメートのロリアッティさんや近所の学校の生徒らも加わり、教育の権利を求めて静かに抗議している。

26日からコロナ制限緩和 低感染地域で飲食店など再開 2021/4/16

[ローマ 16日 ロイター] - イタリア政府は、26日から多くの地域で新型コロナウイルスによる制限措置を緩和すると発表した。ただ、感染再拡大を避けるため、多くの活動を再開するまでになお警戒が必要とした。現在の規制は5月初めが期限だが、その後の対応は決定されておらず、各党から圧力を受けていた。ドラギ首相は会見で、「劇的ではないが改善しつつあるデータに基づき、政府は妥当なリスクを取っている」と説明した。イタリアでは先月、入院患者などが増加したことを受け、20の地域で実施していた4段階の色分けによる規制を一時停止し、より厳しい赤やオレンジのゾーンを全国的に導入。今月26日からは感染レベルが低い地域で黄色と白のゾーンを復活させる。こうした地域ではレストランやバーの屋外席が利用でき、映画館などは入場者数を制限して再開できる。

EU支部だより -行動の違い-

昨年3月、イタリアは欧州最初にロックダウンを開始。1年たった4月10日現在も10州がレッドゾーン。新規感染者は1万7551人。基本、外出禁止。食料品や生活必需品を扱う店舗以外はクローズ。従わなければ罰金が科せられるなど、政府から厳しくコントロールされ、無縁だったマスクも着用し、ハグもせず、家族や友人にも会わない生活をしています。それなのに、なぜ、収束に向かわないのでしょうか？一方日本では、ロックダウンを政府が国民に強いることができないにもかかわらず、国民はパニックになることもなく粛々と各自がルールを守り生活しています。あたかも国民一人ひとりの力で感染を抑えているかのようです。これは、日本の集団行動を乱さないという教育の影響ではないでしょうか。イタリアは、個人主義が基本です。自分の解釈や判断で行動します。どちらも一長一短。双方がうまくミックスされることが理想なのでしょうが…(松原)



- ・あれから1年
- ・厳しいコントロール
- ・集団と個人

